

✿ **共通テストは始まりにすぎない**

本当の戦いはこれからだ

— 前を向いて国公立二次試験・私大入試に挑もう —

共通テストが終わって約2週間。平均点下落を受けて、多くの人が悩み苦しんだことでしょう。しかし、出願先を決定したなら、もう後ろを振り返ってはいけません。合格に向けて勉強あるのみです。明日からは、自宅学習期間に入りますが、全員の進路先が決定するまで東高校の指導は継続します。まずは、もう一度、自分の闘争心に火をつけましょう。そして、最後までくじけずにやり抜きましょう。先生方も共に戦います。



今年は最後まで何が起こるか分からない 逆転を目指して最後までやり抜こう

共通テストを終えて、気持ちが切れかけている人もいるかもしれません。しかし、ここで戦う気持ちを失ってしまったのでは、これまでの3年間の努力の甲斐がありません。再度、自分の心に火をつけて、次の国公立大入試と私立大入試に挑んでほしいと思います。

【国公立大入試】完全に「二次勝負」の年

A・B判定でも簡単に逃げ切れない！C判定以下でも逆転可能

A、B判定だからと言って、簡単に逃げ切ることはできません。他の人より少しだけ有利な条件で二次試験に進めるというだけです。一方、「C判定以下」の人も、逆転のチャンスは大いにあります。実際に、過去の本校の先輩方の中にも、逆転合格をした人はたくさんいます。さらに、3月末に「追加合格」を得た人もいます。

特に、今年の国公立大入試は、共通テストの難化による平均点の下落とコロナ感染の急拡大の影響が大きく現れると思われます。全国的に「安全志向」が高まることで「弱気な出願（ランクを下げて出願）」になることや、各大学のボーダー付近に受験生が集中することが考えられます。配点にもよりますが、単純に共通テストの成績では合否が決まらず、二次試験の結果で勝負が決まります。

【私立大入試】共通テストの影響あり 最大定員の方式を受験

コロナ禍の影響で感染者数の多い首都圏の大学を避ける動きも見られますから、本校生の受験が多い仙台市の東北学院大や東北福祉大をはじめ、地方大学も難化が予想されます。また、共通テストの難化により私立大受験者の増加も予想されます。推薦・総合型の定員の増加により、一般選抜の定員も小さくなってきています。ゆえに、「共通テスト利用方式」だけに頼るのではなく、一般選抜の「最大定員の方式」を受験していくことを強く勧めます。

★進路指導部から3年生へのお願い

以下の点について、進路指導部から3年生にお願いがあります。ぜひ、協力してください！

1. 国公立大受験者は『受験番号』を担任へ報告 必

国公立大入試では、合格発表後すぐに、県教育委員会や新聞社などに本校の合格者数を報告する必要があります。すみやかに合否確認をしなければいけません。ゆえに、国公立大受験者は、「受験番号」が分かりしだい、必ず担任へ知らせてください。

2. 私立大の『すべての合否結果』を担任へ報告 必

私立大学の合否結果が発表されたら、すみやかに、すべての「日程」・「方式」の受験結果を担任に報告してください。人によっては、同一の大学に、「共通テスト利用方式」と「一般入試〇〇日程」というように、複数の方式で合格している人もいます。

また、予定していた受験を取りやめた場合も必ず報告してください。すべてを正確に記録し、各機関に報告することになります。

3. 最終的な『進路先』が確定したら担任へ報告 必

受験結果がすべて出そろい、最終的にどの学校に進学するのかが確定した場合は、必ず担任へ報告してください。誰がどこに進路先を決めたのかを「指導要録」に記録して残します。

また、進路先の各種の統計データを県教育委員会や文科省等に報告しなければいけません。浪人することを決めた場合も、どの予備校に通うのか知らせてください。

4. 小論文・実技・面接の『受験報告書』を担任へ提出

後輩のために情報提供をお願いします！

国公立、私立を問わず、「学校推薦型・総合型選抜」と「一般選抜」において、教科試験以外の「小論文または総合問題」、「実技試験」、「面接試験（グループディスカッション）」が課された人は、記憶が確かなうちに、「受験報告書」を作成し、どのような形式、内容の試験（問題冊子を）だったのか、詳しい情報を提供してください。この記録は本校の貴重な財産となり、今後、後輩たちが有効に活用していきます。

5. 『2022版の赤本』を進路室に寄贈してください

すべての受験が終了し、自分が購入した「2022版の赤本」が不要になったら、ぜひ、学校に寄贈してください。書き込みがしてあったり、多少痛んだりしていても全く問題ありません。合格を決めた大学の赤本ならば、「縁起の良い赤本」として大歓迎します。「合格者からの寄贈」とラベルを張って、後輩に貸し出します。ぜひ、後輩のために協力してください。